

地域とともにある学校

菊陽南小学校は、全校児童80人、職員20人の学校で、保護者や地域と結びつけた教育活動をしています。昨年度は文部科学省から優良PTAの表彰も受けました。

子どもたちは「鼻ぐり井手のボランティアガイド」「アユとウナギの稚魚の放流」「グリーンカーテンづくり」「菊陽学園との交流」「いも・野菜作り」など地域の皆さんからいろいろと教わりながら、楽しく有意義に学習を積み重ねています。

これらの「学習」を通して、子どもたちは地域の人たちから多くのことを学び、自分たちの故郷に誇りを持つようになってきました。



5月12日に鼻ぐり井手ボランティアガイドを務めました

水稲を植えぬが代掻きする田圃三つ月水張りキャベツを植える
ほろにがき味こそ春とかみしめる今朝の味噌汁路の香にみつ
返り見る道の遠きよ夕昔今日は今日なり一人行かむか
葉の上に白き蕾の大山蓮華風雨の中にしかと動かず
赤い鳥赤い木の実を一つ食べ赤い小鳥になりました

短歌会

新漬けの高菜のうまさ阿蘇の茶屋 田島 三間
晴々と朝日に光る軒菖蒲 宮川ユキエ
翡翠色先ず箸の出る落煮かな 紫藤 祥子
離合待つ単線駅や麦の秋 曾我 育代
希望の星入学児増ゆ近隣に 曾我トモ子
新茶汲む終の雫の色をきり 緒方チエ子
まぜご飯色どりがざる山椒の芽 米山るみ子
卒寿なる叔母に母見て温かし 吉田 幸子
一斉に命の発動雨蛙 木村 信子

菊陽句会報

きくよう文芸

ほめ上手阿蘇高菜荷重にす 志賀キヨ子
寡黙なる庭師の枝や夏に入る 財津 早雪
船窓に雨の島かな青嵐 原野レイ子
行く春や切りつめし庭らと淋し 寺尾千代子
頭には菖蒲のリボン子も孫も 高橋 孝子
空豆のおかめの顔の弾けたる 田中 亜古
紅薔薇一輪差しに灯かな 北川しんじ
復元の城方緑に支えられ 佐藤 澄世

梅田 國雄
河北 幸一
佐藤せい子
中村トシエ
松本 東亜

人権啓発標語 「ありがとう その一言が はぐくむ輪」

武蔵ヶ丘中学校 1年 矢原 彪雅(現在2年生)

「自分のこと」



大きく育てホウセンカ

ぼくは、ユウヤさんの気もちがわかります。ユウヤさんはきっと、(ランドセルがおちていたら、こっちに持ってこないで、たなに入れておいてほしい)と思っています。

ぼくも、イライラしている時は、ありがとうもおはようも言っていない。だからぼくと同じで、ユウヤさんはむしをしたんだと思います。

ユウヤさん、もしイライラしていたり、いやなことがあっても、むしはダメだよ。そしたら、先生にそうだんするといいよ。ぼくもイライラしていたり、いやなことがあつたらむしをしてしまうから、いっしょに直していこうね。めいれいもすることがあるから、いっしょに直そうね。

菊陽南小学校 2年 川端 星空(現在3年生)

ヒロシさんにもふわふわことばを言ってね。ヒロシさんがいやがることはやめてね。ヒロシさんとなかよくしてね。ぼくも友だちとなかよくなれるようにがんばっているよ。ユウヤさんがちくちくをしちゃうから、それがヒロシさんにうつって、ヒロシさんが、トモオさんのランドセルをけったと思うよ。ヒロシさんが、ユウヤさんに言えなくてストレスがばくはつして、それでトモオさんのランドセルをけっちゃうんだよ。

もしかしたらそうじゃないかとぼくは思っているよ。ぼくも同じようなことがあるからわかるよ。

これからぼくは、イライラしていたりいやなことがあつていたりしても、友だちをむししたりしません。めいれいもしません。これからぼくはふわふわことばを言います。人がいやがることはやめます。今はまだそんなに自信がありません。でも、やってみます。

(先生より)2年生の3学期に使った「ぼくのランドセル」の話にでてきたユウヤさんと自分のことをしっかりと重ねることができた星空さん。これからやっていきたいことを校内人権集会でも宣言しました。

気付きたい誰かの“痛み”

障がいのある人や妊婦さん、高齢者の人たちが街なかで不便・不自由な思いをしないようにさまざまなマークが考案されています。何となく目にしていても、意外と気がついていない人も多いかもしれません。役場内を意識しながら歩いてみるとマークがいくつもあることが分かりました(写真1, 2, 3)。私たちの生活する場には他にも各種マークがありますが、身近にあるマークを皆さんはいくつご存じですか。

写真1にあるこのマークは障がい者のための国際シンボルマークで、障がいのある人たちが利用できる建物・施設あるいは乗り物であることを示す世界共通のシンボルマークです。車いすの利用者に限らず全ての障がい者を対象としています。



写真1

写真2にあるこのマークはオストメイトマークです。人工肛門や人工ぼうこうを造設している人(オストメイト)は、排せつ物を便器に排出する装具が必要ですが、その交換に適した設備があるトイレだということを示しているマークです。

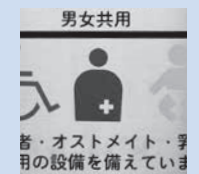


写真2

写真3のマークは耳マークです。各課の窓口に掲示されていますが、筆談やはっきりと口元を見せて話すなどの対応で聴覚障がい者のコミュニケーションをサポートすることを意味しています。



写真3

私たちの社会は実に多様な個性をもつ人たちで構成されています。個性の違いを理解し他者の痛みを共有する、共に生きる社会づくりのためにマークについて考えてみました。意識すること、そして正しく知ることがみんなが暮らしやすい社会・町づくりの一歩になると思います。

右の3つのマークにはどんな意味が込められていると思いますか。

